資料1

世田谷区民意識調査２０２２
（概 要 版）

（令和４年５月実施）

区民意識調査概要版は、令和４年５月に実施した「世田谷区民意識調査２０２２」を要約したもので、広く区民の方にその内容を知っていただくために作成しました。

今回の調査は、「定住性」「職員応対」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、「区の基本計画」「認知症」「新型コロナウイルス感染症」などに関する項目を調査対象といたしました。

これらの調査結果については、区政を推進するための基礎資料として活用してまいります。

また、詳しく知りたい方は、世田谷区の区政情報センター、区政情報コーナー、区立図書館、区のホームページで「世田谷区民意識調査２０２２」をご覧ください。

調査の概要

対象者	世田谷区在住の満 18 歳以上の男女
対象数	4,000 人 （内訳／日本国籍 3,901 人、外国籍 99 人）
抽出方法	層化二段無作為抽出法
調査方法	郵送配布・回収またはインターネットによる回答
調査期間	令和４年５月 19 日～６月２日
有効回収数	1,923人 （内訳／日本国籍1,896人、外国籍27人）
有効回収率	48.1% （内訳／郵送回収1,300通・67.6%、インターネット回収623通・32.4%）

※過去に同様の調査を行っている項目については、直近のデータを記載しています。

回答者の属性

1 定住性
2 区政
3 区の基本計画
4 職員応対
5 ふるさと納税
6 福祉と医療
7 認知症
8 悩みや不安の相談先
9 障害者を支える取り組み
10 子育て・子どもを取り巻く環境
11 地域コミュニティ
12 公共施設
13 災害時の備え
14 男女共同参画の推進
15 多文化共生
16 文化活動
17 スポーツ
18 たばこマナー
19 農業
20 公園
21 区道の舗装
22 新型コロナウイルス感染症
23 区の情報発信

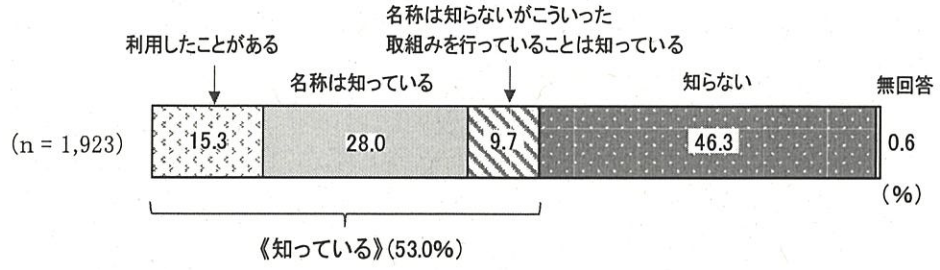
令和４年９月

世田谷区

６．福祉と医療

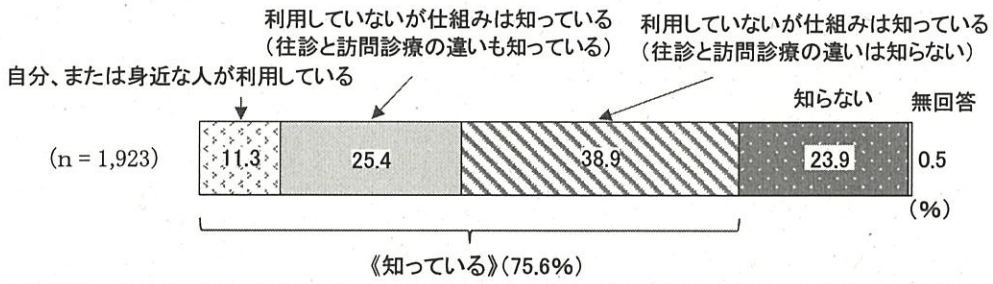
●「福祉の相談窓口」の認知度

「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」（28.0%）、「利用したことがある」（15.3%）、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」（9.7%）を合わせた《知っている》が53.0%、「知らない」が46.3%となっています。



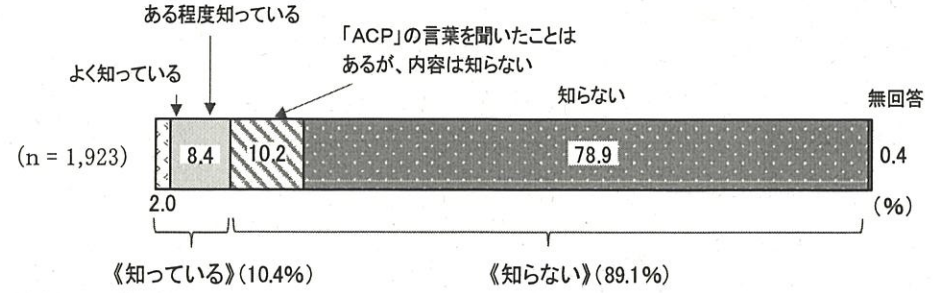
●「在宅医療」の認知度

「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いは知らない）」（38.9%）、「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）」（25.4%）、「自分、または身近な人が利用している」（11.3%）を合わせた《知っている》が75.6%、「知らない」が23.9%となっています。



●「ＡＣＰ」（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の認知度

「ＡＣＰ」（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の認知度を聞いたところ、「ある程度知っている」（8.4%）、「よく知っている」（2.0%）を合わせた《知っている》が10.4%、「「ＡＣＰ」の言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」（10.2%）、「知らない」（78.9%）を合わせた《知らない》が89.1%となっています。



世田谷区民意識調査 2022

（令和４年５月実施）

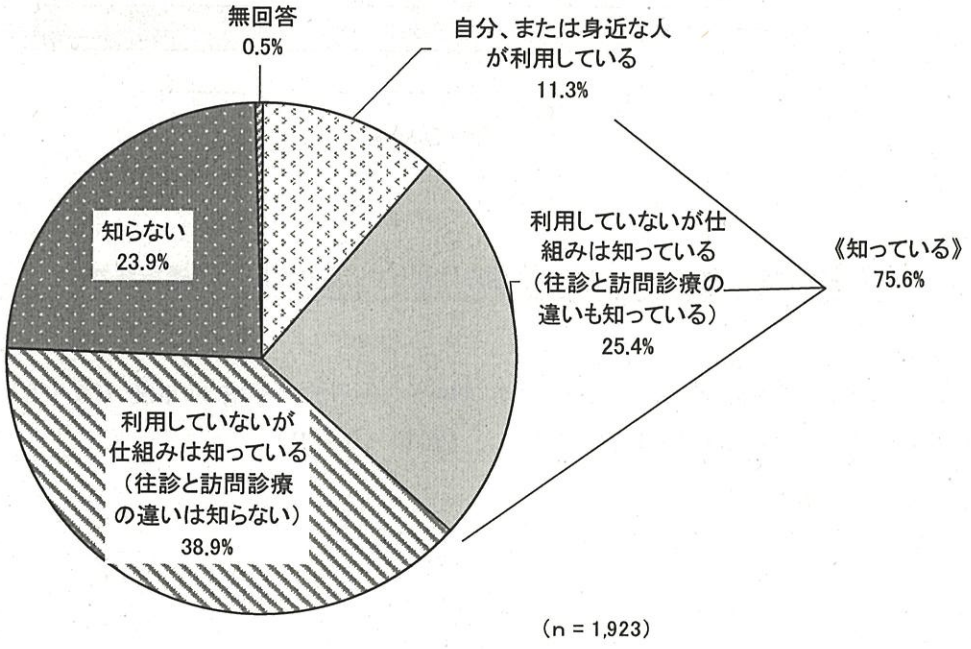
世田谷区

（３）「在宅医療」の認知度

◎《知っている》が７割半ば、「自分、または身近な人が利用している」は１割を超える

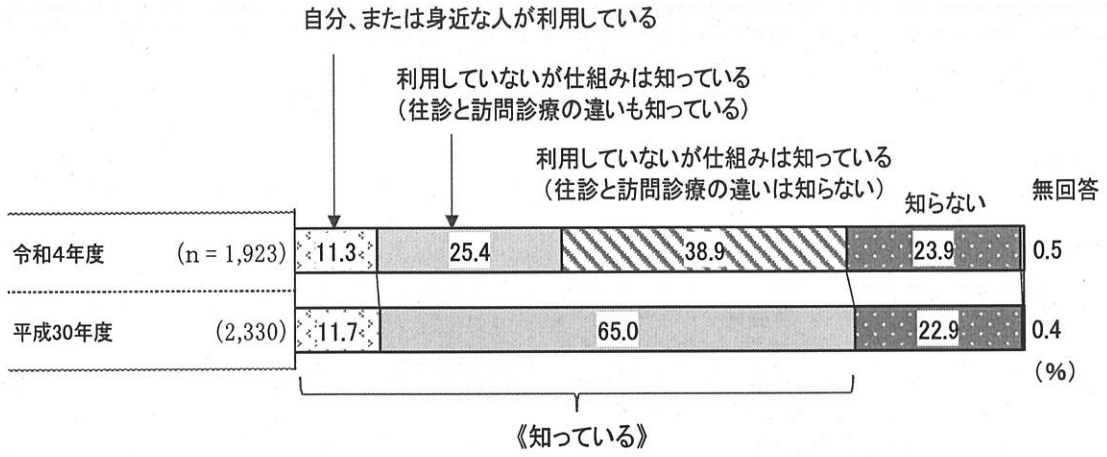
問１６　あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。（○は１つ）

図６－３－１



「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いは知らない）」（38.9%）が４割近く、「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）」(25.4%)、「自分、または身近な人が利用している」(11.3%)と合わせた《知っている》（75.6%）が７割半ばとなっている。（図６－３－１）

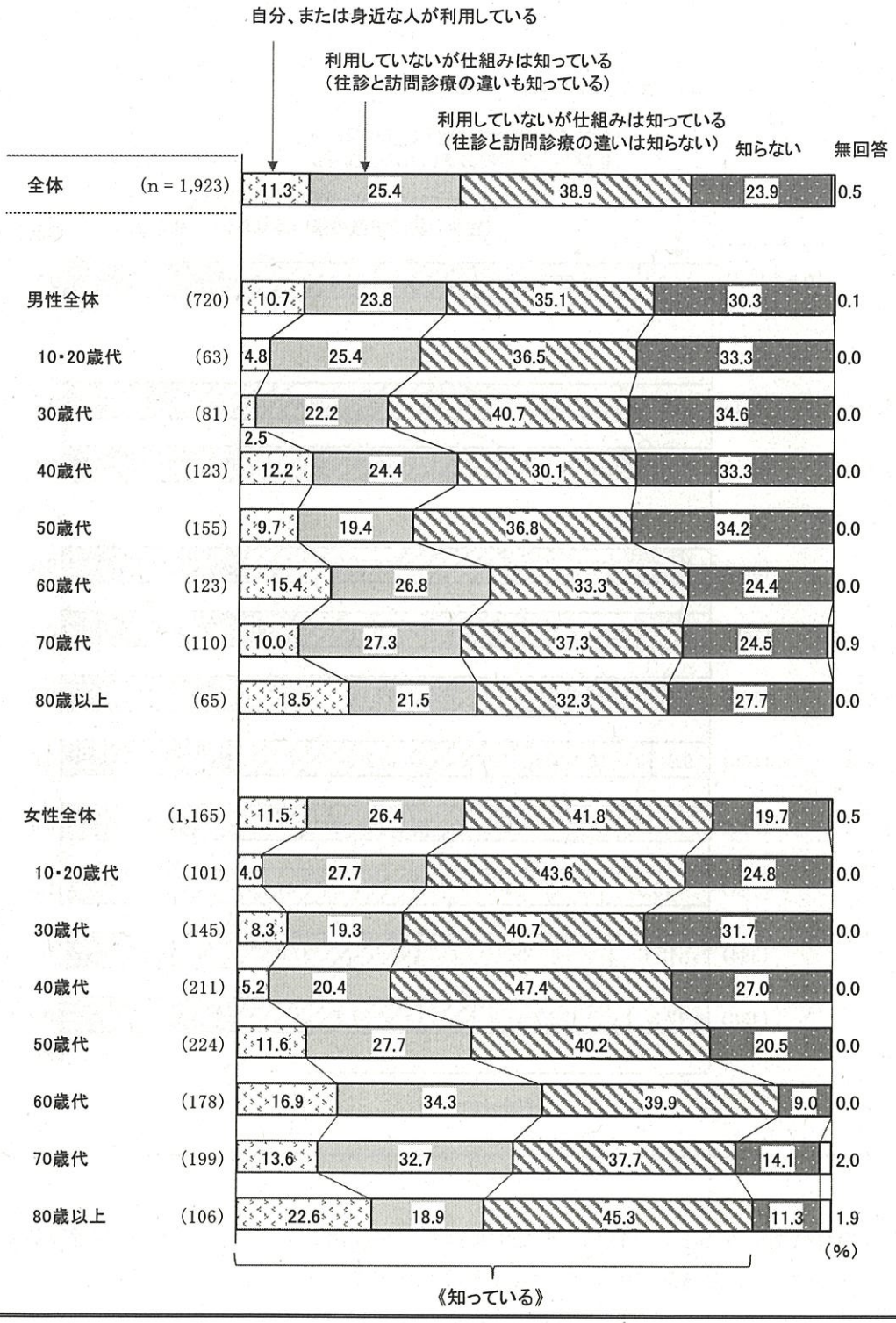
図６－３－２　「在宅医療」の認知度（時系列）



※平成 30 年度調査では、「利用していないが仕組みは知っている」はひとつの選択肢でした。

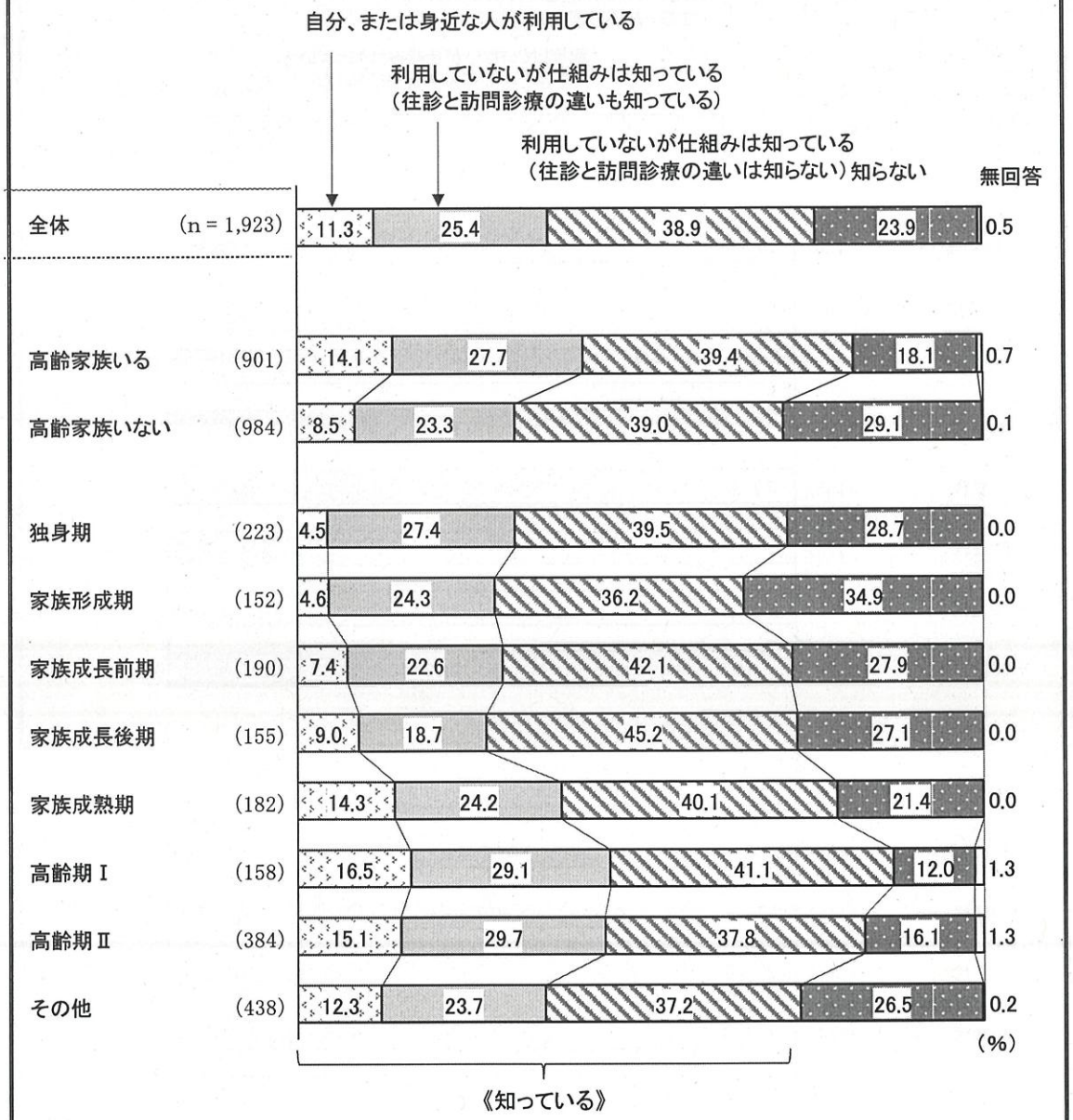
平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成 30 年度（76.7%）から令和４年度（75.6%）で大きな違いはみられない。（図６－３－２）

図６－３－３　「在宅医療」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》はいずれの年代も男性より女性の方が高く、特に女性の60歳代で９割を超えている。（図６－３－３）

図６－３－４　「在宅医療」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、「自分、または身近な人が利用している」の割合は高齢家族がいる世帯で１割半ばで、高齢家族がいない世帯より高くなっている。

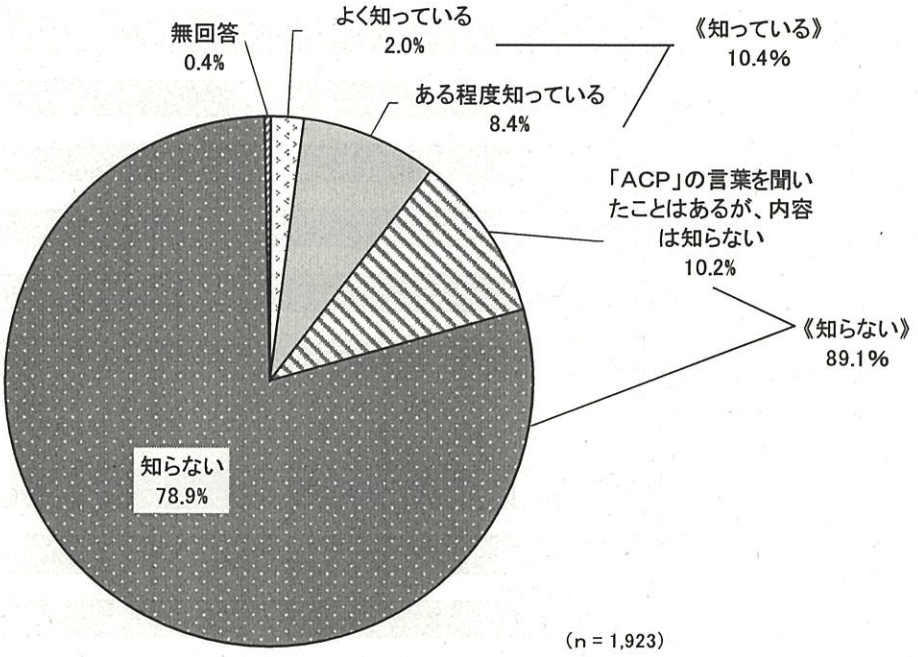
ライフステージ別にみると、「自分、または身近な人が利用している」と「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）」を合わせた割合は、高齢期Ⅰと高齢期Ⅱで４割半ばと、他の層よりも高くなっている。（図６－３－４）

（４）「ＡＣＰ」（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の認知度

◎「知らない」が８割近く、《知っている》は１割

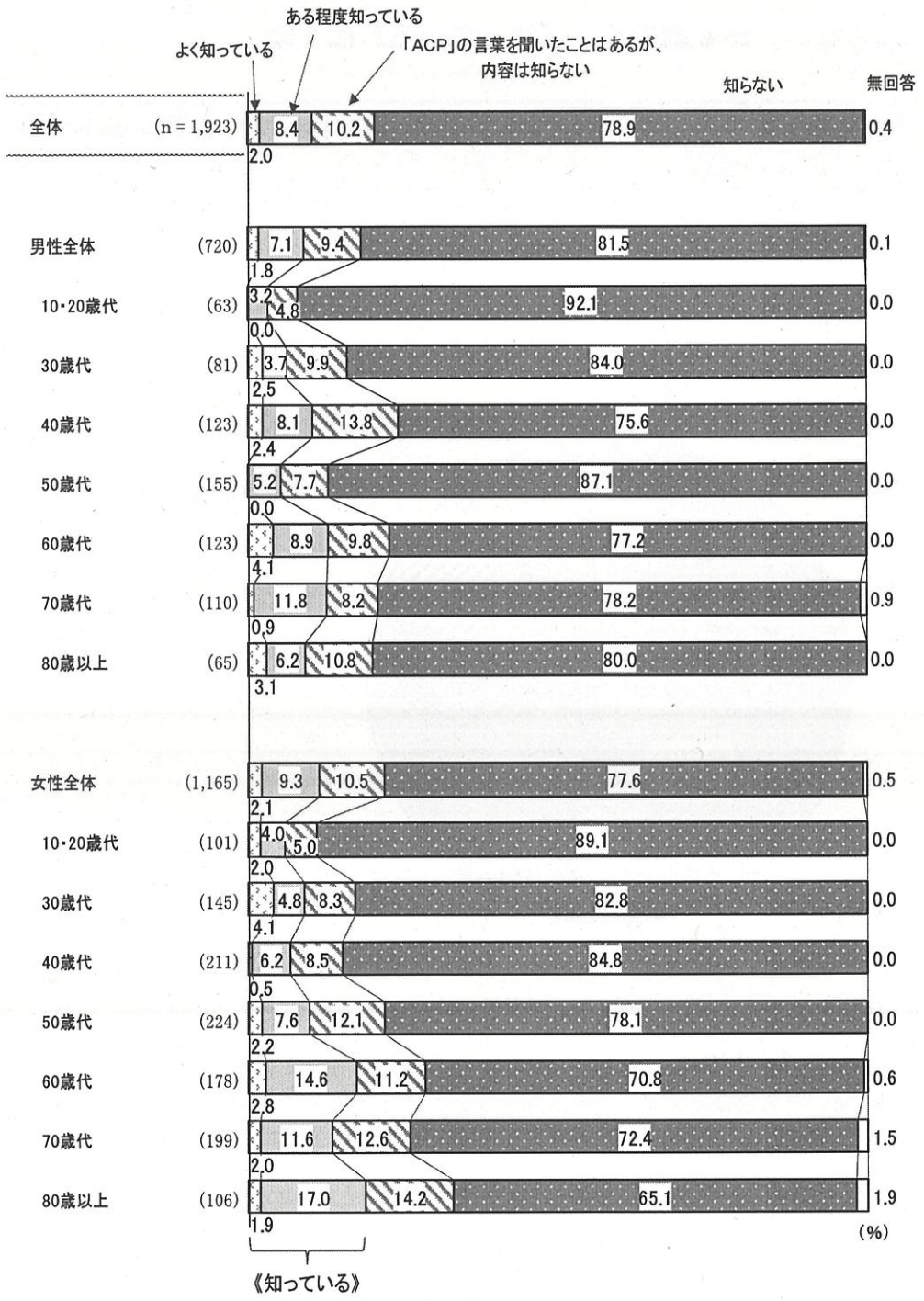
問１７　あなたは、「ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）」を知っていますか。（○は１つ）

図６－４－１



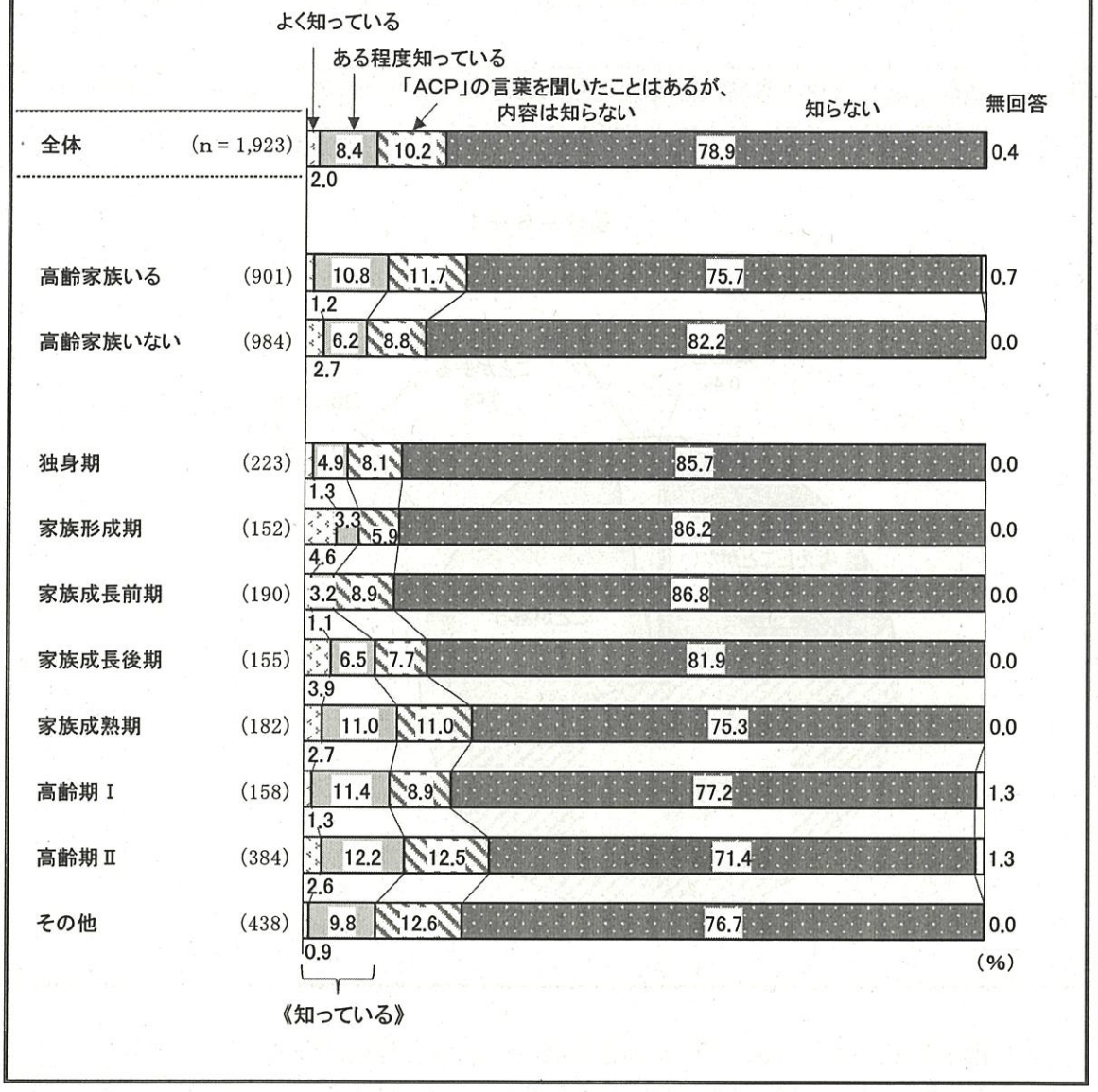
「ＡＣＰ」の認知度を聞いたところ、「知らない」（78.9%）が８割近くと最も高く、「「ＡＣＰ」の言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」（10.2%）を合わせた《知らない》（89.1%）はほぼ９割、「ある程度知っている」（8.4%）と「よく知っている」（2.0%）を合わせた《知っている》（10.4%）は１割となっている。（図６－４－１）

図６－４－２　「ＡＣＰ」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「知らない」は男性10・20歳代で９割を超え、女性10・20歳代でほぼ９割と高くなっている。一方「ある程度知っている」、「よく知っている」を合わせた《知っている》が、女性の80歳以上で２割近くとなっている。（図６－４－２）

図６－４－３　「ＡＣＰ」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、《知っている》の割合は高齢家族がいる世帯で１割を超え、高齢家族がいない世帯より高くなっている。

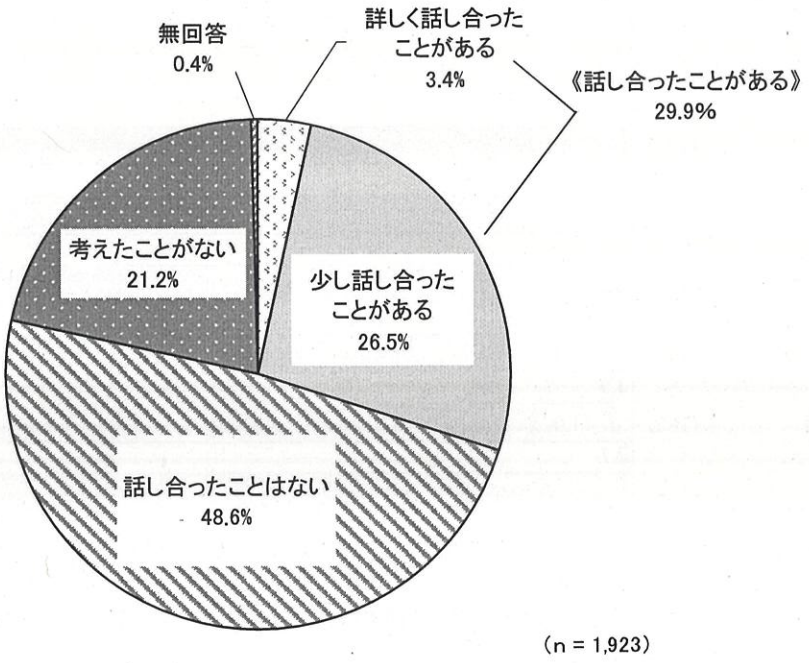
ライフステージ別にみると、「知らない」の割合は独身期、家族形成期、家族成長前期で８割半ばとなっている。（図６－４－３）

（５）人生の最終段階に関する話し合いについて

◎「話し合ったことはない」が５割近く、《話し合ったことがある》は３割

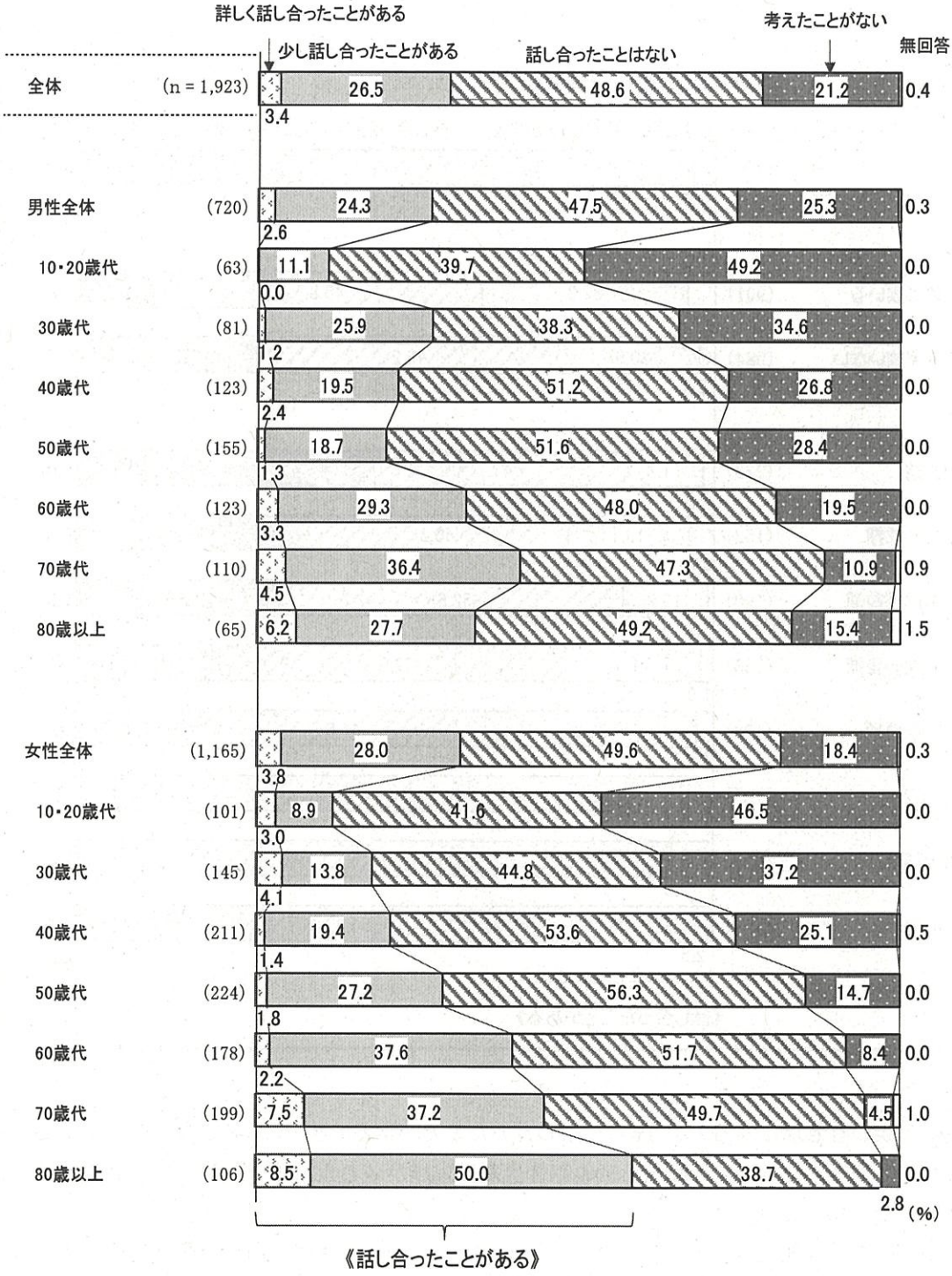
問１８　あなたは、人生の最終段階を迎えた時の過ごし方について、医療・介護関係者や家族等の信頼できる身近な人と話し合ったことがありますか。（○は１つ）

図６－５－１



人生の最終段階についての話し合いの有無を聞いたところ、「話し合ったことはない」(48.6%)が５割近くと最も高く、「詳しく話し合ったことがある」（3.4%）と「少し話し合ったことがある」（26.5%）を合わせた《話し合ったことがある》（29.9%）は３割、「考えたことがない」（21.2%）は２割を超えている。（図６－５－１）

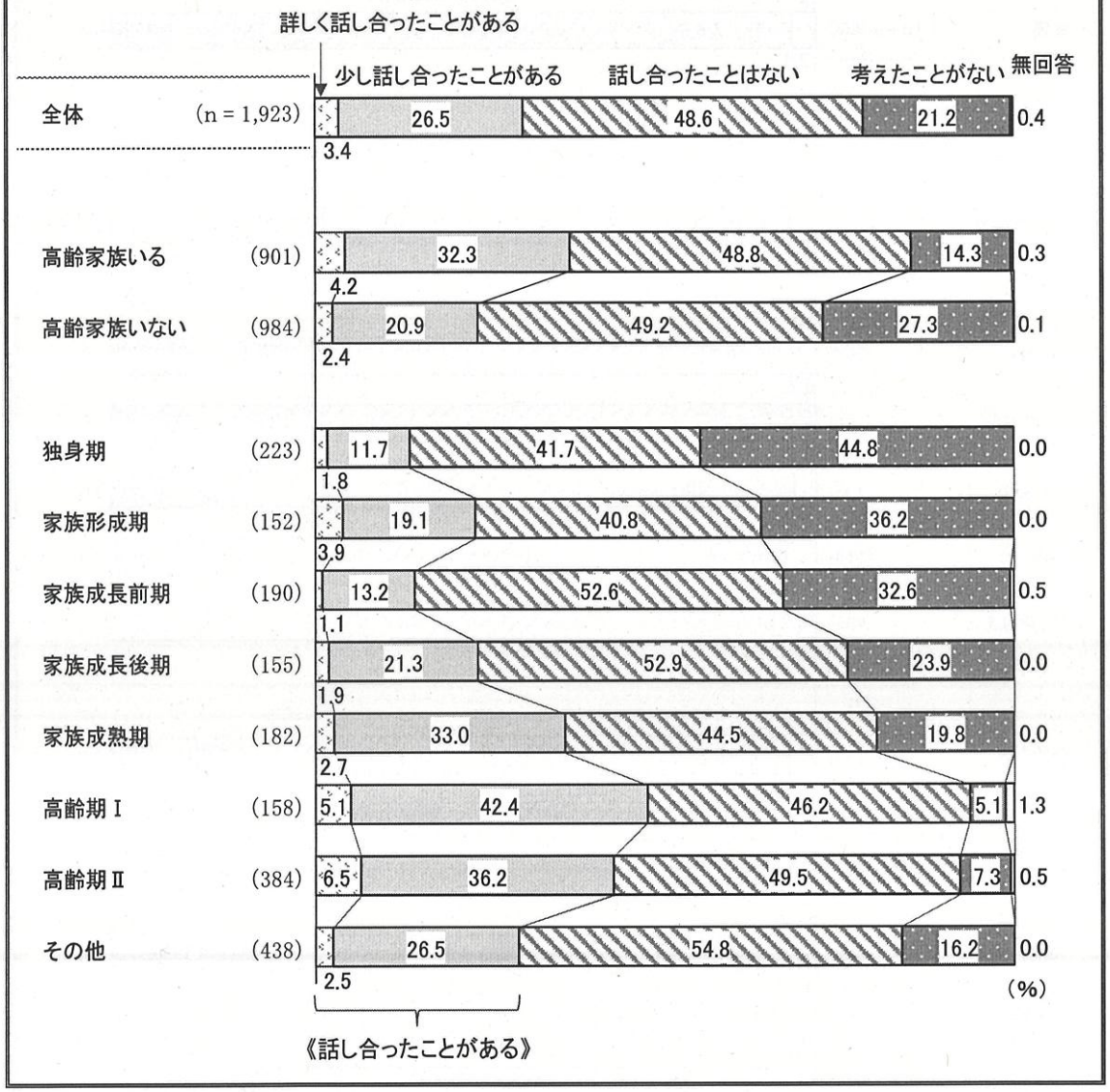
図６－５－２　人生の最終段階についての話し合いの有無（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「詳しく話し合ったことがある」と「少し話し合ったことがある」を合わせた《話し合ったことがある》の割合は、女性の 80 歳以上で６割近くと高くなっている。

（図６－５－２）

図６－５－３　人生の最終段階についての話し合いの有無
（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、「詳しく話し合ったことがある」と「少し話し合ったことがある」を合わせた《話し合ったことがある》の割合は高齢家族がいる世帯で４割近くで、高齢家族がいない世帯より高くなっている。

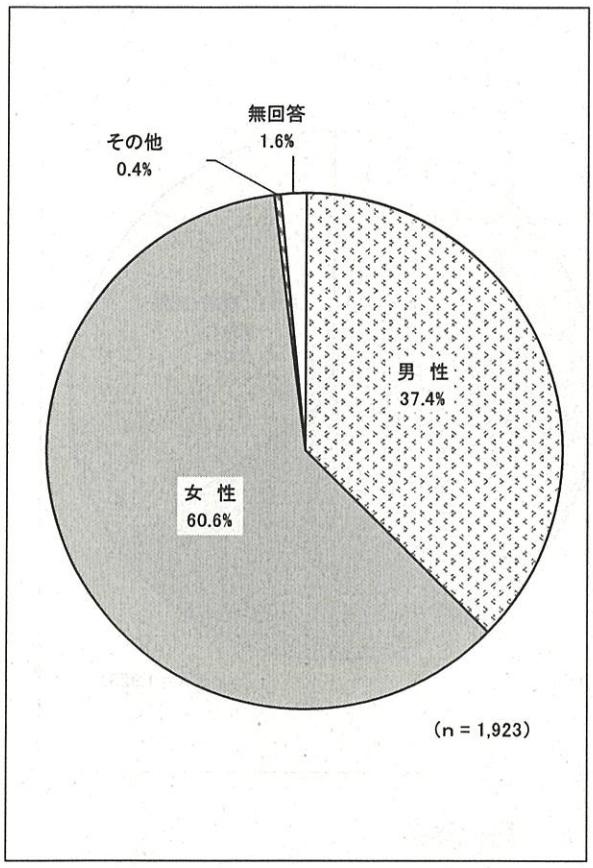
ライフステージ別にみると、「考えたことがない」の割合は独身期で４割半ばとなっている。

（図６－５－３）

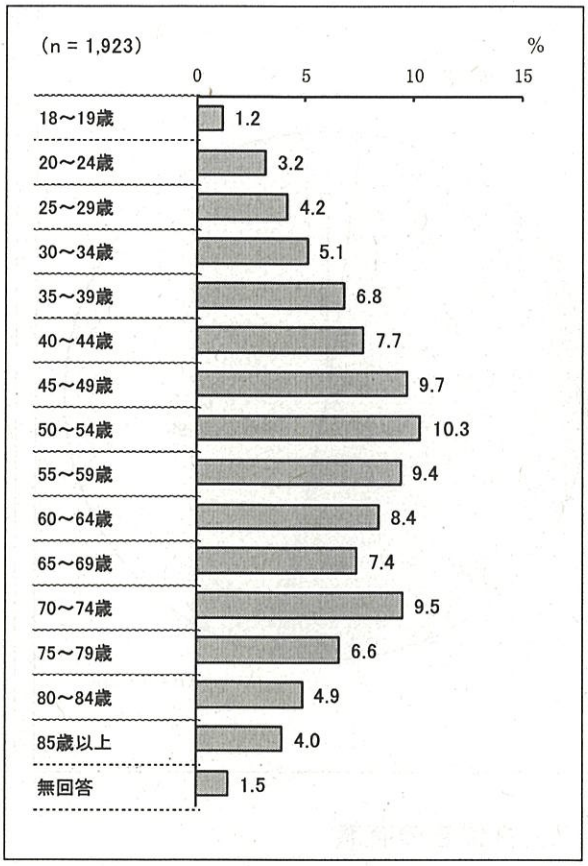
標 本 構 成

１．標本構成

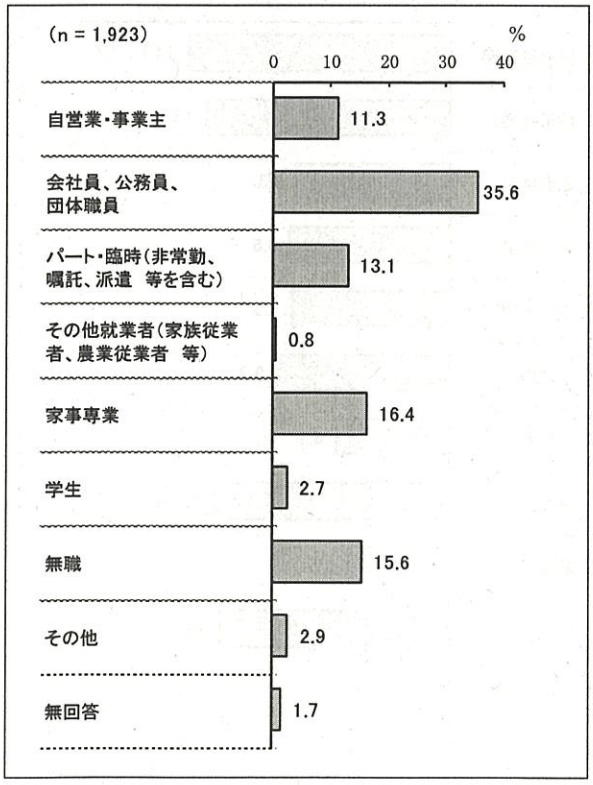
（１）性別



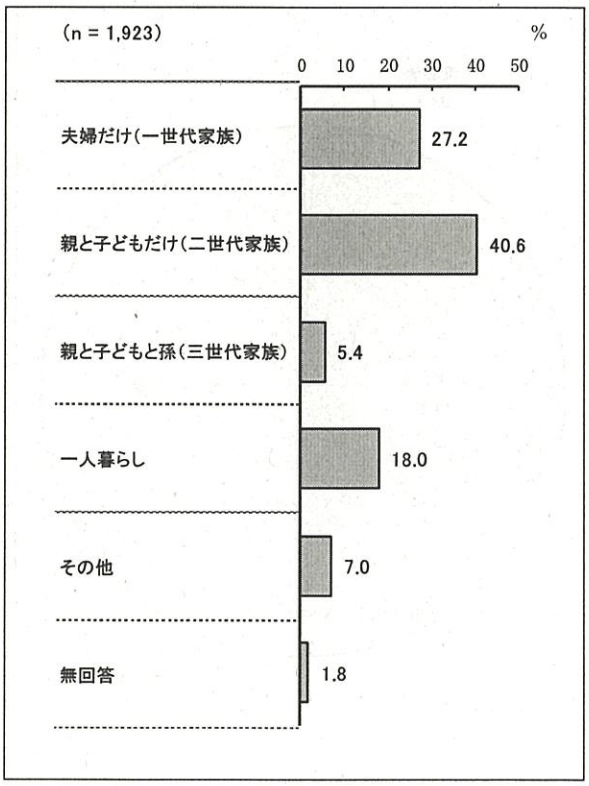
（２）年齢



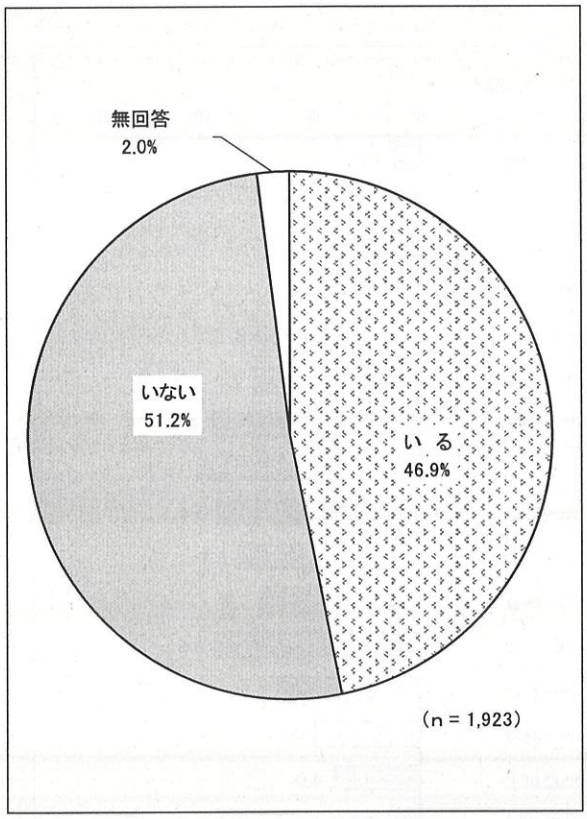
（３）職業



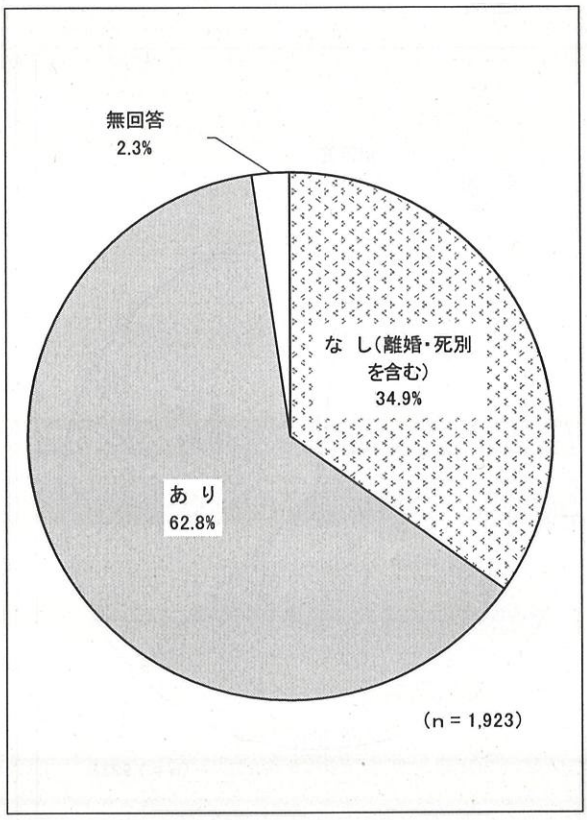
（４）家族構成



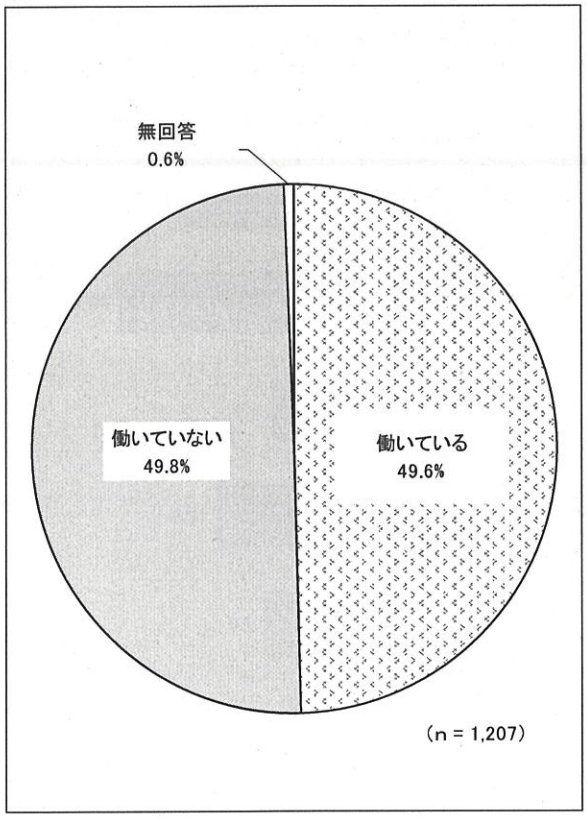
（５）同居家族における高齢者の有無



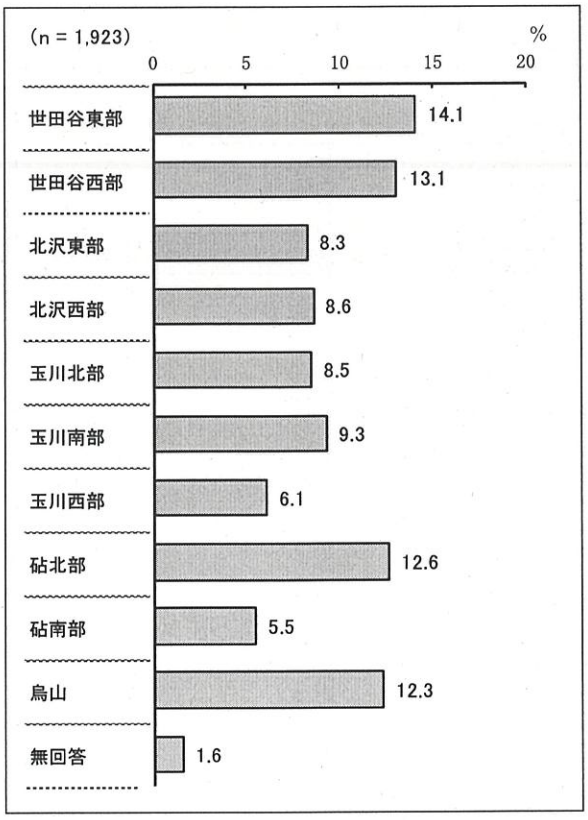
（６）配偶者の有無



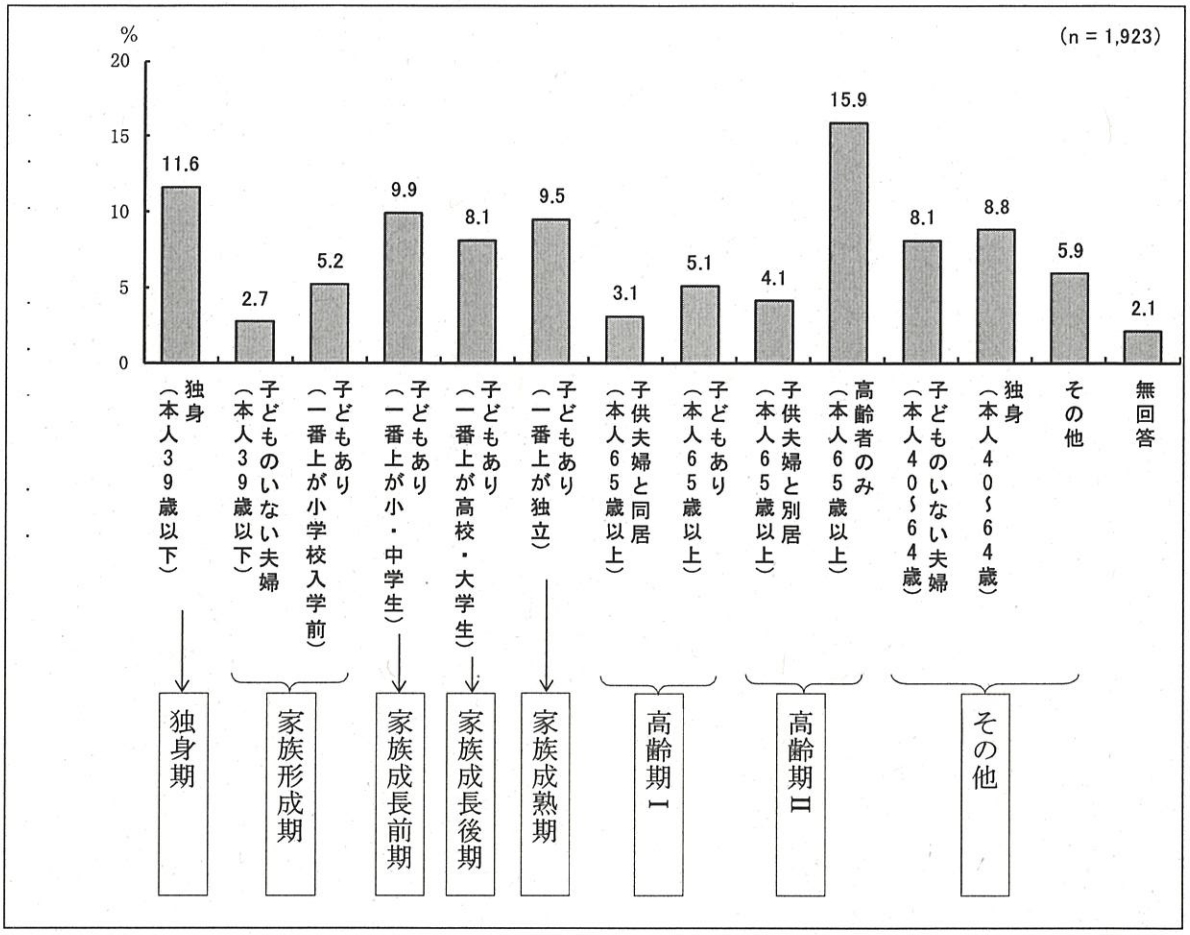
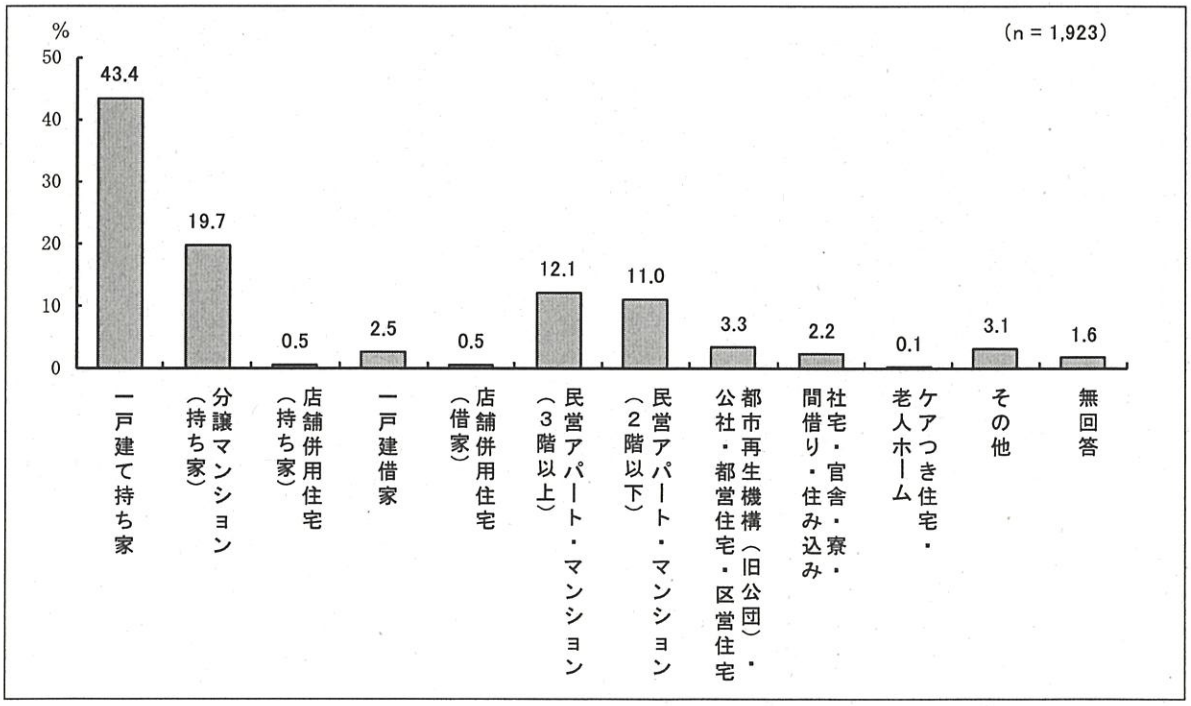
（７）共働きの有無



（８）居住地区



（9）ライフステージ



（10）住居形態